

地域県土警察常任委員会資料

(令和6年12月17日)

ページ

- 『日本創生に向けた人口戦略フォーラムinとっとり』の開催結果について
【人口減少社会対策課】・・・2
- スーパーはくと運行開始30周年記念セレモニー等の開催について
【交通政策課】・・・4
- 「地域公共交通まちづくりシンポジウム」の開催結果について
【交通政策課】・・・5
- 鳥取砂丘コナン空港第1期コンセッションの中間評価の結果について
【交通政策課】・・・6
- 「鳥取うみなみサイクルトレイン」期間限定運行の結果について
【観光戦略課】・・・7
- 大阪・関西万博に向けた本県の主な推進状況について
【観光戦略課】・・・8

輝く鳥取創造本部

『日本創生に向けた人口戦略フォーラム in とっとり』の開催結果について

令和6年12月17日

人口減少社会対策課

11月30日にとりぎん文化会館で開催された『日本創生に向けた人口戦略フォーラム in とっとり』の結果について報告します。

1 フォーラム概要（参加者：約1,200人）

〔名称〕『日本創生に向けた人口戦略フォーラム in とっとり』～若者・女性にも選ばれる地方になるために～

〔日時〕11月30日（土） 12：30～18：55

〔会場〕とりぎん文化会館 梨花ホール

〔開催主体〕日本創生に向けた人口戦略フォーラム in とっとり実行委員会

委員長：平井知事（開催県知事）

副委員長：増田寛也 日本郵政(株)代表執行役社長・人口戦略会議副議長、
鳥取県商工会議所連合会

委員：鳥取県商工会連合会、鳥取県中小企業団体中央会、日本労働組合総連合会鳥取県連合会、鳥取商工会議所、倉吉商工会議所、米子商工会議所、境港商工会議所、鳥取県経営者協会、鳥取県経済同友会、新日本海新聞社、鳥取県市長会、鳥取県町村会、山陰合同銀行、鳥取銀行、鳥取大学、鳥取環境大学

〔プログラム〕（敬称略）

（1）挨拶 平井伸治 鳥取県知事、赤澤亮正 経済再生担当大臣

（2）基調講演 三村明夫 前日本商工会議所会頭・人口戦略会議議長

〔テーマ〕人口問題の取り組みの概要とその意義

（主な発言概要）人口減少対策には、数十年にわたる一貫した対策が必要。これまで人口減少対策に欠けていたのは、①政府と民間の危機意識の共有、②若い世代の意識や実態を重視、③人口減少を緩めることが今を生きる我々の責任という意識の3点。



三村人口戦略会議議長

（3）シンポジウム①

〔テーマ〕人口一極集中の是正と地方における人口減少対策

〔コーディネーター〕増田寛也 日本郵政(株)取締役兼代表執行役社長・人口戦略会議副議長

〔パネリスト〕赤澤亮正 経済再生担当大臣、中国5県知事（岡山：ビデオメッセージ、山口：オンライン）、金子隆一 元国立社会保障・人口問題研究所副所長

（主な発言概要）

- ・人口減少対策は地方だけの問題ではなく、国と地方が方向性を一にし、経済界、労働界をはじめとした各界や国民を巻き込み、総力を挙げて取り組んでいくことが何よりも重要。
- ・人口減少による危機意識を身近な生活に置き換えて読み解く、自分事として考えていくことが極めて重要。また、中小企業が非常に多い中でどのように生産性を向上していくのか、企業の血のにじむような努力が必要になると同時に、国がしっかり方向性を出して大きな構造を変えていく必要がある。

（4）若者・女性セッション

〔テーマ〕若者・女性にも選ばれる地方になるために何が必要か

〔司会〕米谷明子 (株)ベネッセコーポレーションたまひよ統括編集長

〔コーディネーター〕佐藤竜也 (株)カラダノート代表取締役

〔意見発表者〕濱崎大輝（とっとり若者活躍局）、鹿田拓也（とっとり若者活躍局）、亀井智子 (株)GOOD GROW 代表取締役、中井みずほ Tottori Mama's 代表

（主な発言概要）

- ・東京等の都心から鳥取の企業を検索する際、本県の給与水準に不安があった。賃金アップする必要があり、また地方の生活のしやすさを発信していくことが必要。
- ・女性管理職の目標値を掲げている企業等がある一方で、キャリア形成について意識していない女性も多く、目標数値にプレッシャーを感じ、自分とのギャップに不安を感じている。ギャップを自然に埋めるために子育て支援・介護の面のフォローも課題。

（5）シンポジウム②

〔テーマ〕働きやすい環境づくりと企業の生産性向上 ～若者・女性にも選ばれる職場を目指して～

〔コーディネーター〕翁百合 株式会社日本総合研究所理事長

〔パネリスト〕矢田稚子 内閣総理大臣補佐官（賃金・雇用担当）、大関雄資 日本銀行松江支店長、森由香里 連合鳥取副会長、畑島美緒 金田コーポレーション(株)代表取締役、坂本哲(株)アクシス代表取締役

（主な発言概要）

- ・県内で働き続けたいと思える魅力のある賃金水準となること、男女間で年齢とともに拡大する男女間賃金格差を是正すること、性別に関わりなくキャリア形成できる環境整備が必要。
- ・アンコンシャスバイアス、無意識な思い込みが無いかを考える必要がある。働きやすい環境整備に力を入れ、居たいと思う会社作りをしていくことが地域に人を留める最大の大きな取組だと思う。

(6) シンポジウム③

〔テーマ〕安心して住み続けられる持続可能な地域づくり

～医療・福祉、買物、交通といった生活サービス・インフラを維持するために～

〔コーディネーター〕辻琢也 国立大学法人一橋大学教授

〔パネリスト〕柴田浩喜（公財）中国地域創造研究センター総合研究リーダー、陶山清孝 南部町長、
神戸貴子 N.K.C ナッシング コアコーポレーション代表、星野大輔 智頭町複業協同組合専務理事

(主な発言概要)

- ・若者世代はマルチワークという働き方に可能性を見出す人は多い。そのような人がたくさん増えれば地域の原動力になり、地域の事業者の給与・賃金体系も上がってくるのでは。
- ・介護サービス、女性や家族がやったらタダという感覚に問題がある。地域に合わせたサービスづくり、これは中央に任せていられないと考えている。

(7) 政府代表あいさつ（石破茂 内閣総理大臣）

(主な発言概要)

- ・重要なのは職場・地域の意識・構造の変革であり、若者・女性にとって「魅力ある働き方・職場づくり」。人手不足が厳しい地方だからこそ、本気で考えなければならない。これが「地方創生2.0」の核心。
- ・石破政権が取り組む地方創生は「東京一極集中の是正」はもちろん、地域の買物・医療・交通、農林水産・観光産業の高付加価値化など施策の「統合化」、「重点化」を図りながら着実に進めていく。
- ・色々な政策を総動員しながら、もう一回それぞれの地域において、女性が選んでくれる職場づくり、男性の育児参画、若者が定着できる地域づくりについて、産官学金労言が集まって意見交換をしていただきたい。



政府代表（石破総理）あいさつ

(8) とっとり宣言

産官学金労言で構成されたフォーラム実行委員会、三村議長、丸山知事、湯崎知事、若者・女性セッション意見発表者（4名）で発表

2 今後の方向性

とっとり宣言により共有された、東京一極集中の是正と人口減少問題を克服するための国民運動をスタートさせ、若者や女性の声に耳を傾け、魅力ある地域社会の構築を目指す方針に基づき、現場の声を聴きながら、県から率先して行動を起こしていく。

(参考) 「とっとり宣言」全文

日本創生に向けた「とっとり宣言」

～若者・女性にも選ばれる地域を実現し、人口減少問題に挑戦～

日本の人口は、2100年には半分に縮んでいくとされており、人口減少は国全体の喫緊の課題である。

本日、産業界・労働界・政府・自治体、そして若者や女性が、国の根幹に関わる静かな有事である人口減少問題を克服し、次の世代に持続可能で夢や希望を描くことができる未来を引き継いでいくための方策や課題について議論を交わし、各界各層広く国民全体で連帯して行動を起こしていくことの重要性を共有した。

私たちはここ鳥取県からこの日本を変えることを誓い、日本創生に向けた人口減少問題を克服するための国民的運動をスタートさせることを声高らかに宣言する。

一、我々は、東京一極集中に歯止めをかけ、人の流れを呼び込む地域、安心して子供を産み、育てることができる地域、人口減少下でも豊かで持続可能な地域の実現に向け、力強く行動していく。

一、我々は、人口減少問題解決の鍵を握る若者や女性の声に耳を傾け、産業界、国・自治体、大学、金融機関、労働界、言論界など各界各層が一体となって、若者・女性にも選ばれる魅力ある地域社会の構築に向け行動を起こす。

特に、若者・女性の働き方をめぐる「将来不安」を解決するため、賃金格差の是正、正規化の推進、いわゆる女性の賃金のL字カーブ問題の解消、男性育児取得の推進等に取り組む。

一、我々は、人口減少問題に目を背けることなく、一人ひとりが自分事として考え、日本創生の実現に向けて行動していくことをここに誓う。

智頭急行株式会社が平成 6 年 12 月 3 日の開業から今年で 30 周年を迎えたことから、スーパーはくと運行 30 周年記念セレモニーなど、さまざまな 30 周年記念事業を実施していますので報告します。

1 スーパーはくと運行開始 30 周年記念セレモニー

- (1) 開催日 12 月 3 日(火)
- (2) 場 所 鳥取駅改札前コンコース
- (3) 出席者 鳥取県知事 平井伸治
智頭急行株式会社代表取締役 西尾浩一
西日本旅客鉄道(株)理事 山陰支社長 金岡裕之
鳥取駅長 小川修司
- (4) 内 容 記念セレモニーを実施するとともに、スーパーはくと 1 号で到着したお客様のおもてなしとして、しゃんしゃん傘踊り披露や、記念品配布によりお出迎えを行いました。



2 主な 30 周年記念事業

(1) 智頭急行開業 30 周年大感謝祭 (11 月 4 日(月・祝)、智頭町役場駐車場周辺)

智頭急行の運営に協力する地域の方への感謝状贈呈式や 30 周年記念フォトコンテストの表彰式などのセレモニーに加えて、地元の芸能披露や、鉄道好き有名人のトークショーなどを行い、終日盛り上がりました。(来場者数：約 1500 人)

※また、大感謝祭前日の 11 月 3 日には、大原車両基地において、鉄道好き有名人とともに、運転体験や写真撮影会などの前日祭を実施。

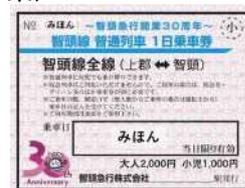
※開業 30 周年記念フォトコンテストでは、「智頭急行 30 周年の軌跡」をテーマに、智頭急行の魅力や歴史を感じることでできる写真を募集し、優秀作品(金賞 1 点・銀賞 2 点・銅賞 5 点)の表彰を実施。(募集期間：R6. 5. 1～R6. 9. 30)

(2) 智頭急行 30 周年記念！特別デザイン 1 日乗車券販売 (智頭線利用促進協議会事業)

特別デザインの智頭急行普通列車 1 日乗車券を作成し、期間限定で販売。

- ・販売期間：11 月 1 日～12 月 8 日
- ・販売金額：大人 2000 円、子ども 1000 円
- ・販売枚数：300 部

(※購入特典として、オリジナルパスケースをプレゼント)



(3) 恋山形駅応援 SNS キャンペーン

「恋がかなう駅 恋山形駅」を PR し、鉄道の利用促進を図るため、「# (ハッシュタグ) 恋山形駅」をつけて恋山形駅の写真とともに各種 SNS に応援コメントを投稿いただいた方に、恋山形駅グッズ(キーホルダー)をプレゼントしました。(実施期間：10 月 12 日～11 月 4 日、配付数：141 個)

(4) その他

ア 開業 30 周年記念鉄印の記帳販売の実施 (R6. 5. 1～R6. 12. 31)

地方鉄道地域振興を目的として販売している「鉄印」について、30 周年記念鉄印を実施
イ プレミアムハザ(スーパーはくとの前頭にある乗務員室の助手席に添乗体験)

有料イベントとして、主に週末を中心に 5 月、10 月に計 11 日間実施し 27 名が参加した。

ウ 智頭急行普通列車運転体験会(6 月)、親子と対象にした仕事体験(7 月)、観光列車あまつぼしで行く「ほろよい列車」(8 月)などのイベントのほか、駅名ネーミングライツを販売し、「佐用駅：近畿農産資材株式会社」「にしあわくら温泉駅：にしあわくら小林菓子店」などを契約した。

市町村や交通事業者のみならず、経済界や観光業界等の各分野の関係者、住民が主役となってまちづくりと公共交通を考えるきっかけづくりとして、このたび「地域公共交通まちづくりシンポジウム」を開催しましたので、結果を報告します。

シンポジウム概要（参加者：約240人（オンライン参加を含む））

- (1) 日 程 令和6年12月15日（日）13時30分～15時45分
※水戸岡鋭治氏作品展示、交通事業者PRブース（展示も同日実施）
- (2) 場 所 ホテルニューオータニ鳥取
- (3) 主 催 鳥取県
- 共 催 鳥取県商工会議所連合会
- 協 力 中国運輸局鳥取運輸支局、県内19市町村、（一社）鳥取県バス協会、（一社）鳥取県ハイヤータクシー協会、西日本旅客鉄道(株)、智頭急行(株)、若桜鉄道(株)、地域交通を考える議員の会

(4) 内容

- ①あいさつ：平井 伸治（鳥取県知事）、児嶋 祥悟 氏（鳥取県商工会議所連合会会長）
- ②来賓あいさつ：福田 俊史 氏（地域交通を考える議員の会 幹事長）
- ③祝文披露：石破 茂 氏（内閣総理大臣）

④講演1

- ・講 師：小嶋 光信 氏（（一財）地域公共交通総合研究所代表理事、両備グループ代表兼CEO）
- ・テーマ：交通はくらしのターミナル

（主な講演内容）

- ・地方公共交通の衰退は、マイカー普及、補助金行政の副作用、規制緩和後も続く赤字体質、公共交通サービスへの費用対効果の概念の持ち込み等、6つの要因がある。
- ・公共交通を民間に任せきったのは日本だけで、ヨーロッパ諸国では公設民営が主流。
- ・両備グループでは、地域公共交通再生に向け、「歩いて楽しいまちづくり」「地方交通の再生実証」「政策・制度の再構築」の3つに取り組んできた。
- ・利用促進でお得な定期券、パークアンドライド、小学一年生の1年間無料パスなど様々な利用促進に取り組んだ。それだけで足りず、見て楽しい乗って楽しい乗り物を作り、乗ることを目的としてはどうかと考え、水戸岡さんにバス・鉄道・船などあらゆるデザインをお願いした。

⑤講演2

- ・講 師：水戸岡 鋭治 氏（デザイナー）
- ・テーマ：デザインは公共のために

（主な講演内容）

- ・デザインは、総合的で創造的な計画のもと、情報を集めすべてを一緒に考える力が重要。
- ・誰もが自分を表現できる舞台・感動を作り出すのがまちづくりにも通じる。
- ・まちは、豊かなコミュニケーションや知識無しには作れず、長い間鍛えられた公共・生活に対する考え方を表す。
- ・やはり人間は気持ち・情緒で動いている。リーダーの思いがその町・国をつくる。



<水戸岡鋭治氏デザイン「若桜号」>

⑥トークセッション

- ・テーマ：地域公共交通とまちづくりについて
- ・パネリスト：小嶋 光信 氏（（一財）地域公共交通総合研究所代表理事、両備グループ代表兼CEO）
水戸岡 鋭治 氏（デザイナー）
平井 伸治（鳥取県知事）
- ・コーディネーター：桑野 将司 氏（鳥取大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 教授）

（主な発言）

- 小嶋氏：・儲かる儲からないではなく、クオリティオブライフを高めるため、つまり健康・安全・環境のためには公共交通が良いので、お金を投じて行政が維持する。
・1つの案として、コンパクトなまちづくりの中で駅を中心としたものを作っていく。
・観光地や食など自然との共生を生かしながらインバウンドも取り込んでいく。
・交通とまちづくりは、鳥取県の宝の山を生かす知恵と工夫を皆で努力することが必要。
- 水戸岡氏：・商品価値をどのように生かしていくか。長期的に捉えたルールブックやガイドラインが必要。わかりやすさを大事にしながら。そうでなければ一過性で終わってしまう。
・まちづくりに向け、思いを徹底的に話すと面白い。
・進学でまちを出た子供たちが、まちを愛でるチャンスを作っては。
- 平井知事：・市町村の方や住民の皆様等とみんなで良いアイデアを出しながら盛り上げていければと思う。



<トークセッションの様子>

鳥取砂丘コナン空港第1期コンセッションの中間評価の結果について

令和6年12月17日
交通政策課

鳥取砂丘コナン空港第1期コンセッションでは、令和3年度に「鳥取空港特定運営事業等中間評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置し、運営権者である鳥取空港ビル(株)の事業実施状況について第三者評価（中間評価）を実施しました。この後、令和5年3月に事業期間を令和9年3月まで3年間延長したことから、令和6年度に2回目の中間評価を実施することとし、令和6年8月から10月まで計3回の委員会を開催しました。この結果、令和6年11月25日に委員会から本県に対し評価をまとめた答申が提出されましたので、その内容を報告します。

1 委員会概要

(1) 委員（6名、五十音順）

岡本陽子（公募委員／観光）、谷本圭志（委員長／鳥取大学教授／公共交通）、筒井一伸（鳥取大学教授／地域・観光振興）、西垣豪（鳥取商工会議所副会頭／経済団体）、野邊正彦（副委員長／但馬空港ターミナル(株)常務取締役・空港長／実務者）、廣田恵里（アザレア税理士法人公認会計士／財務）

(2) 評価項目 次の10項目（「地域・観光振興等」は、今回、新たに追加した項目）

「将来・基本コンセプト等」「地域・観光振興等」「安全・安心確保計画」「施設利用料金計画」「事業実施体制」「更新投資費用計画」「経理的基礎」「技術的能力」「総合的評価」「その他」

(3) 評価基準 実施契約・要求水準等の基準を満たしているかについて評価

2 評価結果（答申）概要

(1) 評価点数

- ・合計130点満点中の91.0点 ⇒ 「やや評価できる」に相当する結果（全項目「普通（標準）」（6点）の場合、合計72点／全項目「やや評価できる」（8点）の場合、合計101点）
- ・令和3年度の中間評価結果に対し全ての項目で改善し、「普通（標準）」を下回る項目はなく、「地域・観光振興等」「施設利用料金計画」「総合的評価」の3項目で「やや評価できる」に達した。

(2) 主な評価コメント

ア 好評価

- ・令和3年度に実施した中間評価後、指摘事項に対し、一つ一つ丁寧に改善に取り組んでいる。
- ・民間事業者による創意工夫・利点を活かした空港運営が確認できた。テナントの充実をはじめとする空港利用者の利便性向上や、民間事業者の経営の観点、若手職員のアイデアから始まる新しい取組などが加わり、積極的な地域連携、にぎわいの創出（地域・観光振興）、安全・安心な空港運営などの様々な面において、一定の成果が得られている。
- ・地域と連携したイベント、地域住民への貢献が認められるイベントを開催することによって、一般来場者が増加している。また、空港見学や職場体験などの地域教育にも貢献している点は、集客のみならず社会貢献の意味合いも強い。

イ 課題・期待

- ・今後の適切な空港運営のためには専門的な知識・経験を有するさらなる人材の確保・定着が必要であるが、社員の資格取得の促進、有資格者の確保、人材育成や労働環境の改善へ向けて、賃金体系の見直しや資格手当の充実化が検討されており、早期に実現されることが望まれる。
- ・管理運営の効率化に関し、外部委託が増えているが、単なるアウトソーシングではなく、委託事業者から学び、組織が進化し、将来の業務効率化に繋げていくことが望まれる。
- ・建設業界が担い手不足の傾向にある中、専門性の高い施設点検や除雪などの維持管理業務を自社の職員でもできるようにしておくことが望ましいため、今後、この観点での人材育成を期待する。
- ・空港と周辺観光地等との二次交通の改善、空港DX化に着手したばかりである。また、航空機利用者の増加にはさらなる活動を展開する余地もある。これらの今後の取組・成果に期待する。

(3) 第2期コンセッションに向けての提案等

- ・今後の人口減少に伴う担い手不足に対応するため、空港DX化などによる業務の効率化・省力化を、早期に実現することが望まれる。また、人材確保のため、過酷な気象条件（炎天下等）でも安全・快適な就労環境を提供するなどの技術・ノウハウを外部企業から吸収し、組織力を強化する必要がある。
- ・さらなる空港の利用促進、さらなるにぎわい創出のため、新たなマーケットの開拓、新たな航空機利用者の獲得などに挑戦していくことを期待する。また、「鳥取砂丘」と「名探偵コナン」という2大ブランドを最大限に生かすためのブランド戦略を考えていく時期に来ている。

3 本県の対応

この答申を受けて、令和6年11月29日に本県から鳥取空港ビル(株)に中間評価の結果を通知した。本通知において、鳥取空港ビル(株)に対し、第2期コンセッションに向けて不断の努力を要請した。

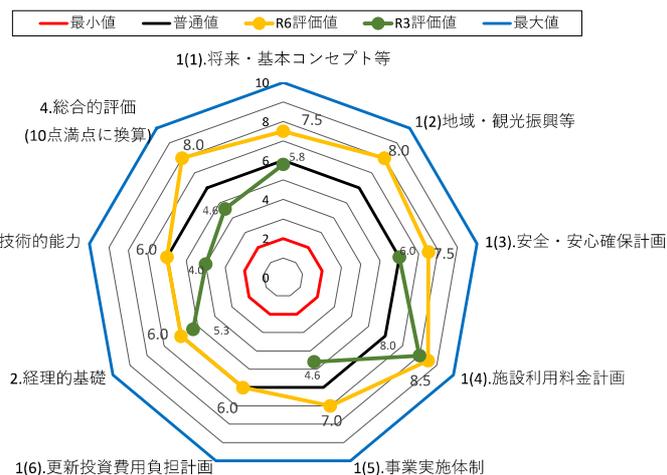


図-1 中間評価委員会の最終評価結果(レーダーチャート)

令和3年度は「地域・観光振興等」の項目はなく「更新投資費用負担計画」は該当がなかった。なお、「その他」(2.5点)は、本図に掲載していない。

「鳥取うみなみサイクルトレイン」期間限定運行の結果について

令和6年12月17日
観光戦略課

ナショナルサイクルルート指定を目指す「鳥取うみなみロード」において、片道サイクリングなどを楽しむための受入環境の充実を目的として、JR西日本等と連携し、同ルートに並走する山陰本線で初めて、定期列車を活用したサイクルトレインを期間限定で運行しましたので、その結果を報告します。

1 「鳥取うみなみサイクルトレイン」の概要

項目	内容
運行期間	令和6年10月13日(日)～12月8日(日) ※指定の土休日のみ運行
実施区間	(山陰本線) 鳥取駅～米子駅
乗車可能駅	鳥取駅、松崎駅、御来屋駅、米子駅
降車可能駅	鳥取大学前駅、倉吉駅、東山公園駅を除く21駅
運行ダイヤ	延べ29便(下り13便、上り16便) (下り) 鳥取08:05発→米子10:44着(上り) 米子15:59発→鳥取18:30着
乗車人・台数	3名・3台乗車可能 ※各車両1名・1台(運賃箱付近スペース) ※3両編成
利用料金	乗車券+500円(安全ベルト、乗車記念ミニタオル付き)
利用方法	JR西日本観光ナビ「tabiwa by WESTER」による事前予約制

※サイクルトレインとは、「輪行袋」(解体した自転車をすべて覆うように入れる袋)に入れることなく、自転車を解体せず、鉄道の車内にそのまま持ち込んで輸送する鉄道のサービスです。

[運行実績]

<利用実績>

延べ50名[乗車率約57%(販売枠数87名)]

<利用者の声>

(満足度) 約8割が「非常に満足」「満足」と回答

(主な意見) ・輪行(自転車を解体・袋への収納)と比較して、サイクルトレインは、とても便利だと感じた。

- ・利用料金500円は、利用しやすい価格設定だと思う。
- ・予約システム「tabiwa」のプロセスも問題なく、安全ベルトもスムーズに受取が出来た。
- ・気軽に利用できることから、行動範囲が広がり、楽しみが増える。

(改善意見) ・午前中に米子駅発の便を設定してほしい。

- ・仲間と楽しむためにも、1車両あたりの積載台数を増やしてほしい。
- ・運行本数や乗車可能駅を増やしてほしい。
- ・秋以外の季節にも運行してほしい。

[今後の予定]

本運行の活用実績や利用者の声等を踏まえ、JR西日本等と連携し、来春以降、より利便性の高い運行につなげる。

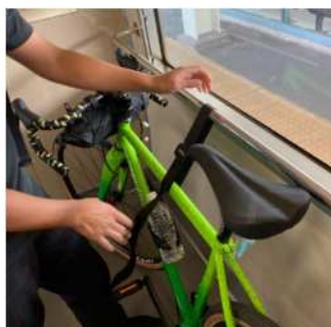
2 運行開始セレモニーの開催

定期列車を活用した「鳥取うみなみサイクルトレイン」の運行開始を記念し、県や商工団体、サイクリング団体等によるセレモニーを実施した。

(1) 日 時 10月12日(土) 午前7時40分～8時5分

(2) 場 所 JR鳥取駅 ホーム3番のりば

(3) 主な出席者 西日本旅客鉄道株式会社 金岡山陰支社長、鳥取県 平井知事
鳥取県サイクリング協会 生田会長、鳥取県商工会連合会 土井理事 ほか



大阪・関西万博に向けた本県の主な推進状況について

令和6年12月17日
関西本部
観光戦略課

来年4月に開幕する大阪・関西万博に向けた本県の主な推進状況について報告します。

1. 関西パビリオン・鳥取県ゾーンの進捗状況

- ・鳥取県ゾーンで来場者をおもてなしする運営スタッフのユニフォームデザインを決定しました。
- ・ユニフォームは、本県の自然（砂丘等）をイメージするブラウン系色を基本とし、帽子等の緑やシャツの白を組み合わせ、動きやすさ等を考慮したデザインとしています。
- ・鳥取県ゾーンの運営スタッフは100名を超える応募があり、年内に20名程度の内定者を確定します。引き続き、鳥取県の観光や食の基礎研修等を実施していきます。



【ユニフォームデザイン】

2. 万博への県内の児童・生徒の訪問（修学旅行等）

- ・教育委員会を通じた学校への博覧会協会や国等の情報提供等により、県内の37校・2,000人を超える児童・生徒が修学旅行で万博を訪問する予定です。（R6.9.20時点）
- ・世界各地の英知が集約された最先端の技術やサービスなどに直接触れる学びの場である万博に、鳥取県の次代を担う子ども達が修学旅行で訪問する際に必要な入場料等を支援するため、県と経済界が連携し、県内企業・団体等からの寄付募集を行います。

〔支援内容〕 修学旅行で万博を訪問する県内の児童・生徒の万博入場料及び必要な経費 等

〔募集期間〕 令和6年12月12日から令和7年3月31日

〔寄付の種類〕 寄付金：一口5万円目安（何口でも寄付が可能）

寄付物品：万博入場チケット10枚以上

3. 万博及びとっとりリアル・パビリオンPRコーナーの設置

万博開幕を100日後（令和7年1月3日が100日前）に控え、大阪・関西万博開幕や万博期間中の誘客促進に向けた県内での機運醸成を図るため、県民や年末年始等でJR鳥取駅を利用する来県者へ万博鳥取県ブース出展内容の紹介及びとっとりリアル・パビリオン等のPRコーナーを駅舎内にオープンします。

・時期 令和6年12月下旬～令和7年3月末

・場所 鳥取駅コンコース

・展示内容 パネル展示

パンフレット、チラシ配架、幟掲出

カウントダウンボード

鳥取県ゾーン紹介映像上映 など

※12月下旬にオープニングセレモニーを実施予定です。